

令和4年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う人材を育成する学校 ・地域に貢献する学校 				
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>		<p>達成状況</p>	
<p>○附属中学校開校に向けて、3年間、6年間を見通した指導方法、指導体制、教員間の連携等の改善に努めている。さらに、指導方法の工夫をや研究を行っていく必要がある。</p> <p>○学習意欲を高める工夫として、ICT教育環境の整備や授業の工夫を行っている。しかし、生徒の自主的な学習に関して課題があり、自学自習や発展学習の支援を工夫する必要がある。</p> <p>○発達に課題がある生徒やメンタル面で不安を抱える生徒の増加に伴い、スクールカウンセラーはもちろん専門家との連携の上で、チーム学校としての対応をしている。今年度も継続していく。</p> <p>○部活動加入率が高く活発に活動して反面、HR活動、生徒会活動、委員会活動において生徒の自主性を重んじた活動を促す必要がある。</p>	<p>授業の充実と学習習慣の確立</p>	<p>① 主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業の見直しをし、ICTの活用推進により「わかる授業」「主体的な授業」を展開する。</p> <p>② 生徒各自が興味・関心・進路希望等に応じた科目設定を行い、数学科・英語科および学校設定科目においては少人数授業や習熟度別授業を展開し、きめ細かな指導を充実させる。</p> <p>③ 自主学习時間の目安を、1・2年次3時間以上、3年次5時間以上とし、自学自習の習慣化を支援する。</p> <p>④ 生徒の進路希望実現のため、平常日・長期休業中における組織的・計画的な課外および全員参加による土曜課外を実施する。</p> <p>⑤ 大学見学会や進路希望別ガイダンス等を契機に生徒自身が自ら進路実現を目指す意識を醸成するキャリア教育を行う。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>		
<p>○地域貢献としてのボランティア活動に部活動単位・個人単位で参加している生徒が増えつつあるため、より社会の一員としての自覚や地域貢献への意識を促す必要がある。</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<p>⑥ 登校指導や授業等での意識付けを通して基本的な生活習慣の確立を図り、海高生としての矜持である「海高ブランド」意識の醸成と品位ある行動を確立させる。</p> <p>⑦ ・担任と生徒による個別面談や保護者面談を通して一人一人の悩みや不安に寄り添い、生徒理解に努める。(年間5回以上) ・教育相談体制を充実させ専門家の積極的・効果的な活用と関係機関との連携に努める。</p>	<p>B</p> <p>A</p>		
<p>○広報活動と情報公開を進め、開かれた学校づくりを行い、より多くの保護者や地域社会の理解と協力を得る必要がある。</p> <p>○時間外勤務の削減を行うべく、行事の見直しや適正な退勤時間の設定、業務を行う環境の整備などを積極的に行う必要がある。</p>	<p>特別活動とキャリア・パスポートの充実</p>	<p>⑧ ・キャリア・パスポートの積極的な活用をした部活動やホームルーム活動、学校行事を通して、心身の健康づくりや体力づくりを実践し、生涯にわたるスポーツや文化活動に親しむ能力を育成する。 ・HR活動・生徒会活動・各種委員会の活性化および自主的な活動を支援しながら、人間関係形成・社会形成能力を高める。</p>	<p>B</p>		
	<p>保護者・地域との連携の推進</p>	<p>⑨ ・学校説明会、ホームページの定期的な更新および広報誌等を通して、地域社会や保護者に積極的に学校生活の様子を発信する。 ・学校と地域役割分担を明確にした上で、生徒の積極的なボランティア活動を連携しながら推進する。</p>	<p>B</p>		
	<p>働き方改革について</p>	<p>⑩ ・コンプライアンス遵守に則った指導を心掛け、教科指導をはじめ特別活動や学校行事指導などにおいて生徒の健全な育成を実現する。 ・業務の見直しを積極的に行い、計画的な活動ができるよう意識しながら働き方改革を促進する。</p>	<p>B</p>		
<p>三つの方針</p>		<p>具体的目標</p>		<p>評価</p>	<p>次年度(学期)への主な課題</p>
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>将来を担う、地域に貢献する人材の育成</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>自己の明確な将来像を意識し、社会に目を向けられる生徒の育成</p>
	<p>「学びの方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>単位制の特徴を生かして、幅広い分野に関心意欲をもたせて、進路実現につなげる。</p>	<p>A</p>		<p>学校設定科目の見直しや総合的な学力の育成に関する進路指導の見直し</p>
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>高い進路目標を設定し、その実現を目指して主体的に日々努力する生徒</p>	<p>B</p>		<p>授業改善や学校行事の運営等の見直しによる生徒の主体性の育成</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②③④	B	B ・ICTを活用する機会をさらに増やし、学習意欲や思考力を高める研究を進める。 ・言語活動をさらに充実させ、表現力を身に付けるための機会を増やす。	
		ICT機器の使用や協働学習の実施など授業形態を工夫し、主体的な学習を促す。 ①②③	B		
		既習教材の要約等通じて、文章構成を意識して文章を読解する力を養う。 ①②	A		
		問題演習を中心にを行い、文法や単語の知識を活用し文章を読み味わう力を養う。 ①②	A		
	地歴 公民	主体的・対話的で深い学びを実践し、現在の活動内容の深化を図る。	生徒が授業を通して知識を整理し、考え方を深めることができるよう、積極的にグループワークやリフレクションを導入するとともに、ICT機器を活用した授業を展開する。 ①②③	B	A ・引き続き日常的にタブレット端末を活用する授業展開の工夫を進める。 ・基礎基本的知識の習得を土台とし、自主的な活動を通して深い学びを実践し、自ら思考し表現する力を育む。
			授業等を通して各事象の基礎的知識を身に付けさせるとともに、論理的に自らの思考を表現することができる力の育成を図る。 ①②③⑤	A	
	数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別指導やグループ学習により、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	B	B ・ICT機器を活用した授業の研究を進めるとともに、ICT機器の活用を通して、学習意欲の向上や理解を深化させる。 ・感染症対策を行いながら生徒同士が意見交換し能動的に学習できる機会を増やす。 ・課題や小テスト等を計画的に実施し、生徒の学習習慣の定着や基礎力の向上に努める。
			教科内で教材、指導法等について研究する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着を図る。大学入試共通テストを意識した授業展開を取り入れる。 ①②③	A	
		上位層の育成を図る。	習熟度別指導やグループ学習と平日課外、土曜課外、個別指導等を活用し、応用力の養成に努める。 ①③④⑤	B	
	理科	基礎力の定着を図り、メリハリがありわかりやすい授業を展開する。	学習内容が関連して理解できるよう、わかりやすい授業を構成して実施する。さらに、小テストやレポート等を課し、普段の授業の理解度を確認する。 ①③	B	A ・実験マニュアルを作成し、専門外でも準備や授業がしやすくする。 ・効果的な分野や場面でのICTやデジタル教材のよりよい活用をめざす。 ・観点別評価について科目間での統一性を図り、研究を進める。
			演示や考察を含めた実験、デジタル教材やアクティブラーニングなどを導入し、メリハリのある授業を展開する。 ①	A	
	英語	学力向上につながる授業・課題・課外を工夫するとともに、基礎力の定着・応用力の育成を図る。	ICTを活用し、アクティブラーニングとともに、自学自習においても、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 ①②③	B	B ・観点別評価についての研究を深める。特にSpeaking力の評価や態度についての評価については、客観的評価をすすめる。 ・ICTを活用した授業を積極的に取り入れ、生徒が主体的に活動する授業の工夫を引き続き行う。
少人数授業を効果的に活用し、課外授業や個別指導においても、4技能強化を図るためのアウトプット活動を取り入れる。また習熟度別指導などを取り入れて学力向上を図る。 ②③④			B		
模試をはじめ、GTECや英検など外部検定試験に向けて指導体制を整え、成果が得られるようにする。 ④			A		
保健 体育	基礎的運動能力、体力の向上を目指す。	持久走の単元を生かして、有酸素運動能力の向上を目指す。 ①②	B	B ・持久走の単元ではペアでペースを保ちながら走ることで心肺機能の向上が図れた。 ・体ほぐしや体づくり運動を定期的に取り入れ、心肺機能以外の運動能力の向上を図る。	
		体ほぐし及び体づくりの運動を積極的に取り入れ、上肢と体幹の筋力、走力の向上を目指す。 ①②			
	主体的に体育・スポーツに関わる習慣を身に付ける。	運動と健康のつながりを理解させるとともに、選択授業の中で生徒主体の活動を促し、運動習慣の定着を図る。 ①②	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	芸術	芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	鑑賞の時間を充実させ、創造的な能力を高める表現の学習課題を工夫する。 生徒の個性を重視した少人数指導により、個々の生徒の感性を伸ばす。 ①②	B	B	・各観点を明確に生徒に知らせる。 ・各科目の資質・能力の育成に当たっては、生徒が見方・考え方を働かせて学習活動に取り組めるようにする。
	家庭	これからの時代を生きる生徒が希望をもち、たくましく、よりよく生きる力を身に付ける。	生活に必要な知識、技術を身に付け、自立し、異なる世代の人たちと共生する意識を養う。 ①③⑤⑨ 生活する上での様々な課題を主体的に理解させ、持続可能な社会をつくる一員としての意識を高める。 ①③⑤⑨	B	B	・実験・実習をできるだけ多く取り入れ、より実践的な生活力を身に付けられるようにする。 ・外部講師を活用し、生活で活用できる専門的な知識の提供を行う。
	情報	情報活用能力の向上を図る。コミュニケーション能力の向上を図る。	実習時間を確保し、情報活用能力やコミュニケーション能力の向上を図る。プログラミングを通してICT活用能力の向上を目指す。 ①②	B	B	・ICT機器を活用した授業の研究を進める。 ・プログラミング学習を通してICT機器の活用能力の向上を目指す。
教務	授業の充実による学力向上	生徒の「主体的、対話的で深い学び」が可能になるよう授業の工夫や指導体制の改善を行い、『Findアクティブラーナー』の利用促進や「校内相互授業参観」週間の充実など、研修体制を整える。また、校外で行われる研修会へも積極的に参加するように促し、授業改善へとつなげる。 ①②	A	A	・引き続き授業の工夫や指導体制の改善に努め、デジタル機器の活用を含めた校内外での研修等の充実をめざす。 ・中高一貫校の特性を生かした教育課程の編成を引き続き進める。 ・長期的な視点から面談場所やカウンセリングルームの設置についての計画を立案する。 ・「学校説明会」等の対面での広報活動に加え、ホームページ等のオンラインによる広報活動を強化する。 ・液晶モニタ(デジタルサイネージ)を年次、校務分掌等幅広く活用できるよう努める。	
	適切な教育課程の編成	新学習指導要領の目的に沿った教育課程を編成する。令和4年度併設型附属中学校開校を受けて、積極的に小中学校への授業参観などを計画し、情報交換に努める。魅力ある学校づくりを目指して、各教科や分掌との連携を今まで以上に図る。 ②	A			
	生徒個別面談の充実	面談場所やカウンセリングルームの整備や業務の効率化を推進し、生徒との面談機会を十分確保できるように支援する。 ⑦	B			
	広報活動の充実	学校内外で実施する「学校説明会」の場を利用し、中学生・保護者及び地域住民の本校への興味・関心を高める。管理職や部長職以外の教員の小中学校・塾訪問を推進する。ホームページを中心に、様々なツールを用いて本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。 ⑨	B			
	校内環境の整備	校内に設置した液晶モニタを通じて個別最適化された情報提供を実現する。Google Workspace for Educationの活用を促進し、業務の効率化やリモート授業等への対応を強化する。 ⑨	A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	服装・頭髮指導を通し「海高ブランド」意識の醸成を図ると共に、時間を守ることができる生徒を育成する。 ⑥	B	B	・様々な場面において、海高生としての行動指針をさらに分かりやすく提示し、生活の基本を徹底させる。	
	マナーの向上(交通・挨拶等)	交通マナーアップ運動や交通安全教室等を通して交通マナーの向上に努める。 ⑥	B			
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通してマナーの向上とコミュニケーションの充実を図る。 ⑥	A			
		スマートフォンの利用のルールを設定し、校内での使い方やSNSのトラブルに巻き込まれない生徒を育てる。 ⑥	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	年次と連携し、ブリティッシュヘルズ語学研修、大学出前授業、大学見学会、進路希望別ガイダンスなどの進路関係行事を実施する。また事前・事後指導の充実を図り、進路意識を高める。 ⑤	A	B ・今年度は様々な進路行事を、対面とオンラインを併用することで実施することができた。しかし、事後指導の方法についてはさらに研究し、改善していく必要がある。 ・1、2年次において、生徒が探究成果を研究、発表する機会をつくることができた。今後は探究の手法、発表の仕方についてきめ細かく指導していく必要がある。 ・新課程入試に対応するためにも、進路指導に関する情報共有の機会を数多くつくる。
		「総合的な探究の時間」において研究、発表の機会を増やして生徒の主体的な活動を充実させ、より深いキャリア観を育成する。 ⑤	B	
		自主学習時間を記録することで自身の学習量を把握させるとともに、担任・教科担当者による意識付けを継続して行うことで、学習時間の確保・増加を促す。 ③	B	
		課外授業(平常・土曜・長期休業中)の充実、および模擬試験・検定試験の有効活用を通して、大学入試レベルに対応できる学力を養成する。 ④	A	
	生徒が志望する大学の合格率向上	現在の入試制度について情報を収集・整理し、生徒・保護者・教員間で共有を図る。また、生徒の志望する大学に合格できる進路指導実現に向け、1年次より進路検討会と学力分析会を実施し、3年間を見据えた進路・教科指導をする。 ②	B	
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事では、生徒会の自主的、自発的な活動を尊重し、生徒が自ら考え、計画立案ができようにする。また、学校生活の充実と向上を図る活動も行う。 ⑧	B	B ・生徒主体での学校行事や部活動運営ができる組織体制づくりを目指す。 ・積極的に委員会活動ができる体制づくりを目指す。 ・地域貢献を意識し、地域と連携した取組をすすめる。
		各種委員会では、校内活動を中心に、学校生活をよりよくするための活動を行う。 ⑧	B	
	ボランティア活動をととした社会参画	ボランティア活動を通して、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。 ⑨	B	
	キャリアパスポートの活用	キャリアパスポートを積極的に活用し、キャリアプランニング能力を高める。 ⑧	B	
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。 ⑧	B	B ・防火防災訓練、消火器訓練などを通して、防災意識の醸成を図る。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図り、生徒の内面や生活などの相談に応じ、様々な支援に応える。 ・生徒のニーズに応じた奨学金の周知を確実にし、迅速に対応する。 ・日々の清掃活動を通して、環境美化の意識を育てる。
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。 ⑧	A	
		防火防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。 ⑧	A	
	教育環境の美化	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。 ⑧	B	
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。 ⑧	B	
	生徒厚生者の充実	各種奨学金の周知及び申請事務等を迅速に行う。 ④	A	
		パン販売・自動販売機等の運営を円滑に行う。 ⑧	B	
	メンタルヘルスケアの充実	スクールカウンセリングを定期的実施し(年30回以上)、生徒及び保護者の精神的支援に努める。 ⑦	A	
		カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。 ⑦	A	
	特別支援体制の充実	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。 ⑦	B	
学校HPやSC通信活用して、特別な配慮を要する生徒への理解と周知を図る。 ⑦		B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
渉外	PTAの活性化を図る	本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したPTA活動の実施に努める。 ⑨	B	B	・コロナ禍で3年間書面表決となったPTA総会の新たな形を検討し実施する。 ・PTA支部のあり方を検討する。
	各行事の充実	各行事等における保護者への積極的な呼びかけにより(HPの活用)、保護者の意識を高める。 ⑨	B		
図書	図書環境と出版物の充実	常時開放・常時閲覧を推進する。 Egg・Webサービスを利用することで円滑な蔵書検索ができることを、生徒に広めていく。 新刊図書や授業で扱う図書の購入をすすめ、読書意欲の喚起と生徒の探究活動の支援を行う。 センターホールの閲覧図書を充実し、生徒の読書環境の整備拡大をすすめる。 『図書館だより』を発行し、生徒の読書活動の活性化を図る。 ⑤⑧⑨	B	B	・図書館ガイダンスの充実を図る。 ・デジタルサイネージを利用した広報を進める。 ・各年次・各教科との連携を検討し、図書館・蔵書の利用拡大を図る。
第1年次	基本的な生活習慣の確立	学校生活の規律を徹底し、規則正しい生活が送れるようにする。 ⑥⑦	A	A	・生徒指導部と連携し、交通ルールの意識向上、規範意識の向上を図る。 ・「生徒心得」の伝達について、リマインドしつつ生徒に考える機会をつくる。
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。 ⑥⑦	A		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切にす姿勢の徹底を図るとともに、Classiを利用して生徒の学習状況を年次全体で把握し、学力の向上を図る。 ①～④	B	B	・引き続き、学習意欲向上や基礎学力向上を目的とした面談や集会、課外授業等を実施する。 ・生徒自身が学習時間を把握する仕組みを工夫していく。
		家庭学習時間の少ない生徒には面談等を行い、学習意欲の喚起を図る。 ①～④	A		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた集会や学習会を実施し、学力上位層の育成を図る。 ①～④	A		
		適切な学習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。 ①～④	B		
	自己理解の深化と将来像の明確化	進路指導の中で自己理解の深化を図り、将来像を明確にする。 ⑤	B	B	・「興味ある学部系統」未決定者19.8%を減少を目的とした仕掛けづくりをし、将来像が明確になるような働きかけをしていく。
		総合的な探究の時間(「道徳」)やLHRを計画的に進め、将来の進路実現に向けて考える機会を数多くつくる。 ⑤⑧	A		
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	個別面談により進路希望を把握するとともに個に応じた学習・進路指導を展開する。 ④⑤	B	A	・担任面談以外の年次の職員による面談、相談会を実施する。 ・選択的な課外授業を設定し、主体的に学習できる環境を整える。
		学力に応じた課外授業や補習授業を展開することで、高い進路目標を設定させるようにする。 ④⑤	A		
	学習スタイルの深化	それぞれの学習状況を把握し、予習・授業・復習のサイクルを徹底させる。 ①～④	B	B	・外部模試データを利用した面談による学力の把握と学習指導の徹底を進める。 ・課題、小テストを基礎学力定着のために、適切な分量を設定し活用する。
		成績中上位層に応じた学習指導を行い、学力を向上させる。 ①～④	A		
		成績下位層の生徒や学習時間の少ない生徒に対して、学習意欲の高揚を図る。 ①～④	B		
		課題や小テストを課すことで、主体的に学習する時間を確保する。 ①～④	A		
	自律ある学校生活の育成	2年次として後輩の規範となるべく自覚を促し、学校行事やHR・生徒会・各種委員会活動に積極的に参加させる。 ⑧	A	A	・年次集会、年次ホームページの活用により、生徒への生活面や学校生活における意識を向上させる。 ・保護者への連絡を密に行う。
		保護者との緊密な連帯を図り、それぞれの進路実現に向けて生活習慣を再構築させる。 ⑨	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3年次	進路希望の実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を通して、生徒個々が抱えている課題を把握しながら、最後まであきらめない指導を展開する。 ④⑦	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現に向けて、面談の回数を増やしたり、励まし・寄り添いのアドバイスを上手に取り入れたりすることで、最後まで諦めずに学習に取り組めるようにする。 ・志望校合格に必要な学力と本人の学力の差を早期に把握し、その差を埋めるための学習計画を立案させ、時期に応じた受験勉強ができるようサポートする。 ・選択的な課題や課外授業の講座を設定し、主体的に学習に取り組めるようにする。
		学習状況を把握し、計画的・主体的な学習スタイルの確立を目指す。 ①③	B	
		生徒それぞれの学力を把握し、それぞれの層にあった課外や個別指導、進路行事を効果的に行い、学力の向上を図る。 ②④	A	
		教員間での情報の共有に努め、目標を合わせる。志望校分析会を行い、年次全体で生徒を見ていく姿勢で対応する。 ⑤	B	
		保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け、連携を深める。 ④⑨	B	
	自律ある学校生活の確立	最終年次としての誇りと責任感を自覚し、学校行事への積極的な参加やHR活動や部活動の充実を図る。 ⑥⑦⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> ・最終年次として学校行事への積極的な参加や部活動を最後までやりきって引退できるようにサポートする。 ・生徒の問題行動や悩み・心配事などの早期発見を心がけ、改善・解決に向けて関係各部と連携して対応する。
		生活習慣の見直しを常に考えさせ、受験生であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを意識させる。 ⑥⑦	B	
		面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心掛け、関係各部と連携し解決を図る。 ⑦	A	

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60~79%) C:やや不十分(達成度40~59%) D:全く不十分(達成度39%以下)